

科目区分：小学校教科科目

授業科目名：初等音楽

「チーム学校」の一員を養成する初等音楽

音楽教育講座 井上 洋一

1 授業の目的

本授業は小学校教員免許状取得に必要な科目であり、小学校教員として身につけておくべき音楽表現の基本的な技術を修得することを目的としている。

2 授業の到達目標

- (1) 小学校教科書掲載程度の楽曲のピアノ伴奏ができる。
- (2) 小学校教科書掲載程度の楽曲の弾き歌いができる。
- (3) 音楽を愛好する心を演奏を通じて表現できる。

3 専科教員レベルから学級担任レベルへ

本授業は、授業の目的をふまえ、基本的な音楽理論、ピアノ演奏法と歌唱法の基礎知識および演奏技能獲得に主眼をおいてきた。過年度は、音楽・図工・体育の芸体系科目のうち、音楽が得意、もしくはピアノなどの楽器を習った経験をもつ履修者が多かったため、音楽専科教員レベルの技能、たとえば、学習指導要領における共通教材を本伴奏（難易度の高い伴奏）で弾き歌いできるかどうかを評価基準としてきた。しかし、今年度、初回の授業で履修者のプロフィールを調査したところ、ピアノをある程度弾けると回答した学生は7名中1名、全く習ったことのない学生が4名いた。

全科指導が原則である小学校では、音楽経験にかかわらず、学級担任が音楽科の授業を担うことはあたりまえである。専科教員レベルの技能から、（音楽経験が少ない）学級担任レベルに基準を引き下げ、前項、到達目標の(3)の内容に重点をおき、履修者自らが音楽の楽しさを味わうこと、そして、それを子どもたちに伝えるための表現力を身につけるための授業改善を行った。

4 授業改善の具体的内容

(1) 授業形態と時間配分

効率的な理論指導、個に応じた実技指導、さらに楽しい音楽活動を取り入れるために、クラスをさらに2グループ（チームJ：国語専修+音楽専修、チームE：英語専修+音楽文化コース）に分け、全体～グループ～全体の流れで授業を実施した。次は、90分（本授業を行った4限目）の授業

の時間配分である。

○14:30～14:50【全体指導】

受講票配布・全体指導（楽典・発声法・合唱）

○14:50～15:50【グループ別個人レッスン】

①10:50～ チームJ

②11:10～ チームE

※チームJとEのレッスン順は各回交代する。

※グループ別個人レッスンの一人当たりの指導時間は10分程度とする。

※他方のグループは個人練習室での個人練習やグループ発表に向けた打ち合わせを行う。

○15:50～16:00【全体指導】

授業の振り返り・受講票提出・諸連絡



個人レッスン

(2) 発表方法と内容

音楽の楽しさは、他者との共感によってこそ、大きなものとなる。グループ指導の中で毎回、個人で伴奏と弾き歌いを行うが、グループの他の履修者が児童役として一緒に歌うこととし、どういった伴奏が歌い易いのか体験的に学ばせた。

また、実技試験として中間発表会、最終発表会の2回の発表場面を設定した。中間発表会では、グループ発表のみ、最終発表会では弾き歌いの個人発表とグループ発表の両方を課して評価した。ピアノと歌の技能は個人差が大きいですが、グループ発表では、それらを踏まえて各グループとも役割やパートを分担し、まとまったパフォーマンスを工夫して発表した。

今年度は、ちょうどクリスマス直前に中間発表会となったが、国語専修生中心のチームJはチャールズ・ディケンズ原作「クリスマス・キャロル」を効果音や歌・ダンスも加えた音楽劇にアレンジ

して発表した。



チームJ 音楽劇「クリスマス・キャロル」

英語専修中心のチームEは、自分たちで選曲したクリスマスソング・メドレーを、フルート独奏、ピアノ連弾、英語の歌詞によるボーカルで発表した。



チームE 「クリスマスソングメドレー」

5 授業評価

(1) アンケートによる授業評価

最終回の授業において、授業全体を振り返らせ、12項目のアンケートを実施した。

- | | |
|----|--------------------------------|
| 1 | シラバスに示された授業内容であった。 |
| 2 | 小学校科目として「初等音楽」を学ぶ意味が理解できた。 |
| 3 | 実技の指導や説明はわかりやすかった。 |
| 4 | 練習曲の選曲や配付した教材は適切だった。 |
| 5 | 小学校教科書程度の教材の伴奏の技能が身についた。 |
| 6 | 小学校教科書程度の教材の弾き歌いの技能が身についた。 |
| 7 | 音楽を愛好する心を、演奏を通じて表現できるようになった。 |
| 8 | 自分なりに意欲をもって授業にのぞんだ。 |
| 9 | 「初等音楽」の授業は自分にとって役に立った。 |
| 10 | 教育実習に行く際の自信ができた。 |
| 11 | 授業時間外の練習の時間はどれぐらいか？ |
| | 週平均(約) 時間 |
| 12 | 授業の自由な感想、よかったところ、改善したらよいところなど。 |

質問1～11は、4：そう思う、3：おおよそそう思う、2：あまり思わない、1：まったく思わない、の中から最も近い考えを選択させた。

質問11は、授業時間外の練習時間(週平均)を具体的に記入させ、質問12は自由記述とした。

質問1～11は質問の意図から次の表のように区

分できる。このうち、教育学部のディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標)に関わる項目は、質問2～4(DP1知識・理解)、質問5～7【DP3技能・表現】質問8～10【DP4関心・意欲、DP5態度】である。

次の表は、各質問の回答者数と平均である。

区分・DP	質問	4	3	2	1	平均
シラバス	1	5	2	0	0	3.7
DP1 知識・理解	2	4	3	0	0	3.6
	3	6	1	0	0	3.9
	4	6	1	0	0	3.9
DP3 技能・表現	5	3	3	1	0	3.3
	6	0	6	1	0	2.9
	7	3	4	0	0	3.4
DP4 関心・意欲 DP5 態度	8	4	2	1	0	3.4
	9	7	0	0	0	4.0
	10	4	2	1	0	3.4
授業外学習	11	週平均 2.1 時間				

(提出7名 受講生7名 回収率100%)

6 考察

質問3が3.9と高ポイントであった。授業形態・指導方法については履修者も満足している。また、質問9が4.0であったことは、授業改善の意図が十分反映された結果と考える。

DP3(技能・表現)に関する項目が、他のDPに比して、やや低かった。本授業を通して、小学校教科書程度の教材の弾き歌いができる技能を、習得させられなかったことは残念である。この原因は、もともとピアノが弾ける履修者が少なかったこともあるが、授業外学習時間が、例年の履修者平均が2.5時間～3時間のに比べて今年度は2.1時間と少ない。もう少し、授業外にも個人練習室を活用して練習するように声かけをする必要があった。

7 地域社会を核とした教育と研究のつながり

愛媛県小学校教員採用試験では音楽実技がないためか、本授業が、採用試験に役立つとは考えていないようである。今年度の初等音楽の履修者の7名中6名が県外出身者であった。しかし、専科教員をおく大規模校が少なく、音楽経験をもつ教員がいるとは限らない、小規模校が多い愛媛県の現状からすると、本授業のように個人差や個性をもった成員が、役割や分担をしながら協働して音楽表現に取り組む活動こそ、「チーム学校」の一員としての資質を養うことになると考えたい。